

図4 マルコム・グルーム氏(オーストラリア)のタスマニア・ピクトリアルシリーズ(1899-1912)

— Knowledge / 知識

出品者が選んだ展示マテリアルが出品者の知識を反映します。参考文献はタイトル頁やシノプシスに記すとともに、作品はそのサブジェクトが十分かつ正しく理解されるよう構成すべきです。リサーチが出品者によってなされたならば、タイトル頁に明示ください。

— Quality / マテリアルの状態

いわゆるコンディション(Condition、状態だけでなく条件をも示す)ではなく、展示マテリアルの状態を示す Quality が強調されました。具体的には、

1. 目打欠のないもの
2. 無目打切手ではフル・マージン
3. 使用済切手は上消のものを
4. 上記は希少なマテリアルでは許容される
5. モダン切手では完全品が望まれる

— Rarity / 希少性

希少性とは、作品での適切かつ興味あるマテリアルの入手難度や、当該作品と同じものを作ろうとした場合の難しさです。最古の使用例、現存最大ブロック、珍しい使

用例、発行枚数が極めて少ないもの、紙や透かし、目打等の特殊なバラエティなどが対象になります。ただしフィラテリックなものや多過ぎるプリンターズ・ウェイトは要チェックです。なお、展示マテリアルが何故珍しいかの説明がなされるべきで(図6)、「現存〇点中の1点」などの記載は現時点でのデータを書いて下さい。

— Presentation / プレゼンテーション

各展示リーフにおいて、マテリアルおよび説明文とも、詰め込み過ぎず、少な過ぎず、良いバランスを心がけて下さい。マウントは脱落等なきよう慎重に、イラストは多過ぎてはいけませんが、置く場合のサイズはオリジナルの少なくとも25%以上に願います。

■終わりに：筆者より

今回は講師のスヴェンセン氏が平易な英語でゆっくり話してくれ、パワーポイントでの実例紹介がタイムリーで分かり易く、目・耳・手(メモ取り)をフル稼働し得た楽しいセミナー受講でした。

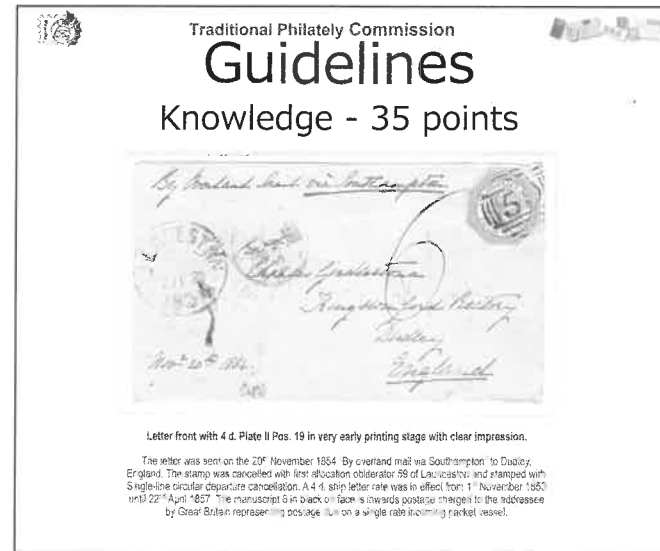


図5 タスマニア最初の切手のカバー。製造面および使用面のデータが十分に記述された望ましい展示の例

審査員になった気持ちで作品を観るとわかるのですが、とりわけ単片切手や1枚貼カバーでは1枚の切手に眼が集中しますので、状態には厳格であるべきでしょう。カバーのルッキングも含まれます。さらに切手自体と同時に消印が眼に入ってきますので、上消しは大切です。

筆者にとって、今回の内容では、重複およびコンディション(Quality)の強調がたいへん印象的でした。最近の国際展出品作品においては、郵便史分野の発展も相まってカバーを多く配する展示が流行ですが、郵便史データだけでなく、貼付切手自体に言及するトリートメントが肝心であり、安易なカバー展示によるページ稼ぎに警鐘を鳴らした、とも取れます。

コンディション(Quality)を求める点は誰もが認める重要なファクターですが、ロットではなく1枚買いが望まれるだけに、資金力だけでなく、年月と根気が不可欠、とくに伝統郵趣の収集家にとって耳の痛いマターです。

以上は、受講後に改めて展示作品を観て受けた印象ですが、やはり生きた展示作品に囲まれている会期中の受講こそが有意義と信じます。セミナーは誰でも参加できるので、せっかくの機会ですから、どうか皆さん、遠慮なくセミナールームに入ってみて下さい。(完)

(編集部注) 同内容の伝統郵趣セミナーは8月開催のインドネシア・バンドン世界展でも予定されています。

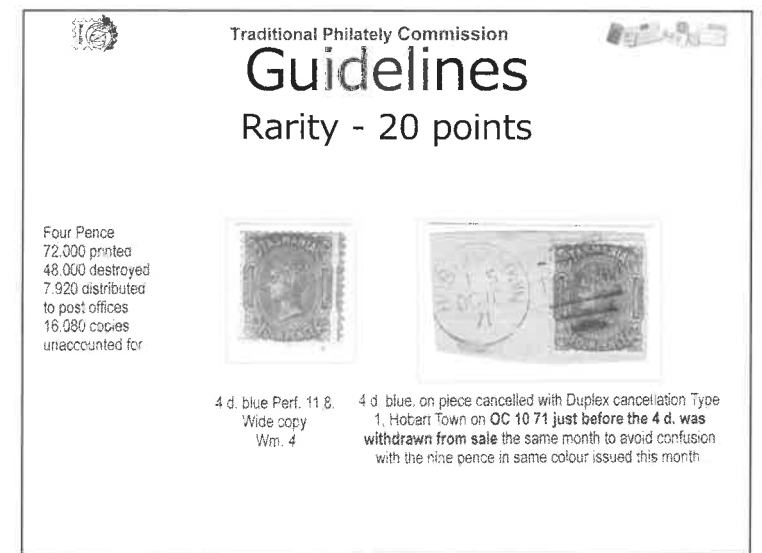


図6 展示アイテムの珍しい理由が明示された例